

制限表面について

水平表面・・・各空港の基準点を中心とする半径800m～4000mの円内であり、基準点から高度45mの表面のこと。

進入表面・・・各空港の滑走路の延長方向(両側)3000mまで伸びた台形状の表面。勾配は50分の1～20分の1

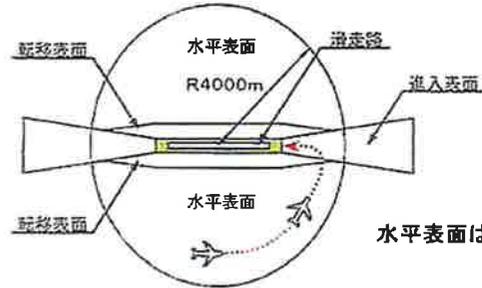
転移表面・・・水平表面と進入表面の間に設定される、滑走路周辺から7分の1の勾配を持った表面のこと。

以上3つの表面は、沖縄県が管理する全ての空港に設定されています。

水平表面

空港周辺での旋回飛行等低空飛行の安全を確保するために必要な表面

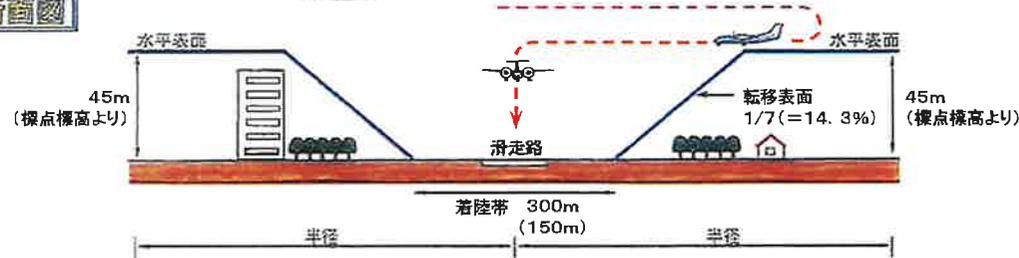
平面図



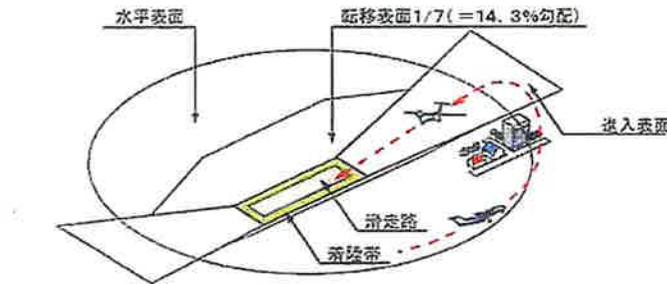
- 水平表面の半径
- 4,000m: 下地島
 - 3,000m: 宮古、新石垣、久米島、与那国
 - 2,500m: 南大東、北大東、多良間、伊江島
 - 1,000m: 粟国、慶良間、波照間

水平表面は、主に小型の飛行機の旋回飛行を対象としている。

断面図



鳥瞰図



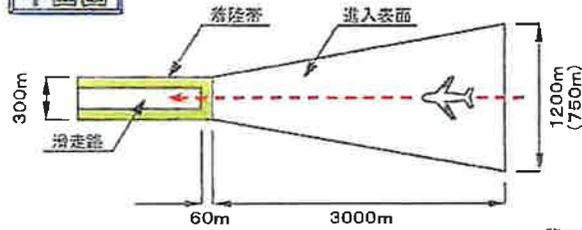
精密進入用滑走路の場合
()書きは非精密進入用滑走路の場合

※ 図は模式的に描いたものであり、
長さや角度は正しいものではない。

進入表面

進入の最終段階及び離陸時における航空機の安全を確保するために必要な表面

平面図



進入表面の勾配

・精密進入用滑走路

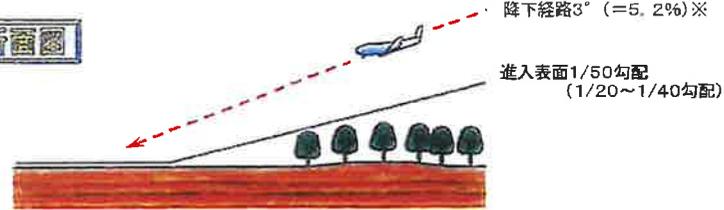
1/50 : 下地島、宮古、新石垣

・非精密進入滑走路

1/40 : 久米島、与那国、南大東、北大東、多良間、伊江島

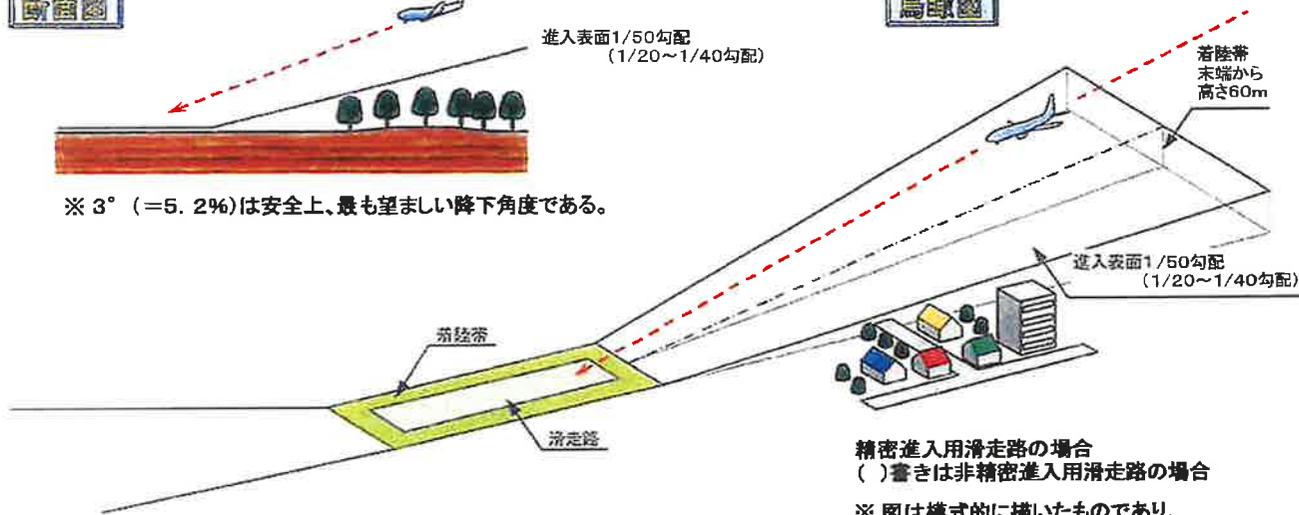
1/20 : 粟国、慶良間、波照間

断面図



※ 3° (=5.2%)は安全上、最も望ましい降下角度である。

鳥瞰図



精密進入用滑走路の場合

()書きは非精密進入用滑走路の場合

※ 図は模式的に描いたものであり、長さや角度は正しいものではない。

転移表面

進入をやり直す場合等の側面方向への飛行の安全を確保するために必要な表面

